

企業ランキング指標の可視化を実現する Web ラーニングシステム

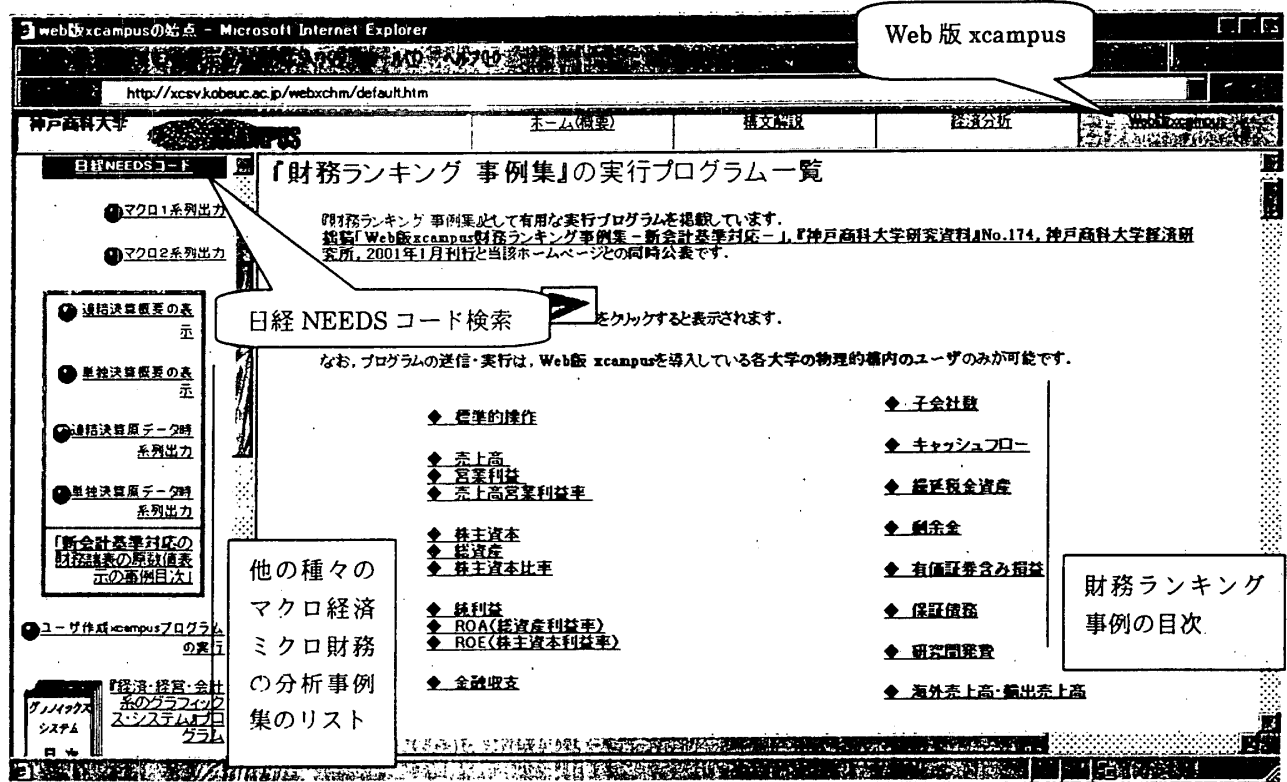
01203114 神戸商科大学 斎藤 清 SAITOH Kiyoshi

1. はじめに

企業の財務データについて、日本経済新聞社や東洋経済新報社、ダイヤモンド社など各社の新聞・雑誌などの記事にみられように、ランキングを計測することが一般に行われている。生のデータそのものよりは順位づけをしたデータの方が有用な情報となるケースが多いからである。データを順位づけして並び替える作業は Excel のような表計算ソフトでも簡単にできるので、ランキングは身近な分析の1つになっている。経済経営系の大学では、データの入手から始まり、データの整理、順位づけ、結果の解釈、レポート作成に至る一連の作業を、情報教育の一環として取り入れることがある。その際にランキングの数値だけでは、授業としても分析事例としても味気ないものになる。本報告では、ランキング指標のビジュアル化を提案したい。既成のソフトウェアを使わずに筆者が独自に構築した Web ラーニングシステムを用いて作図する。

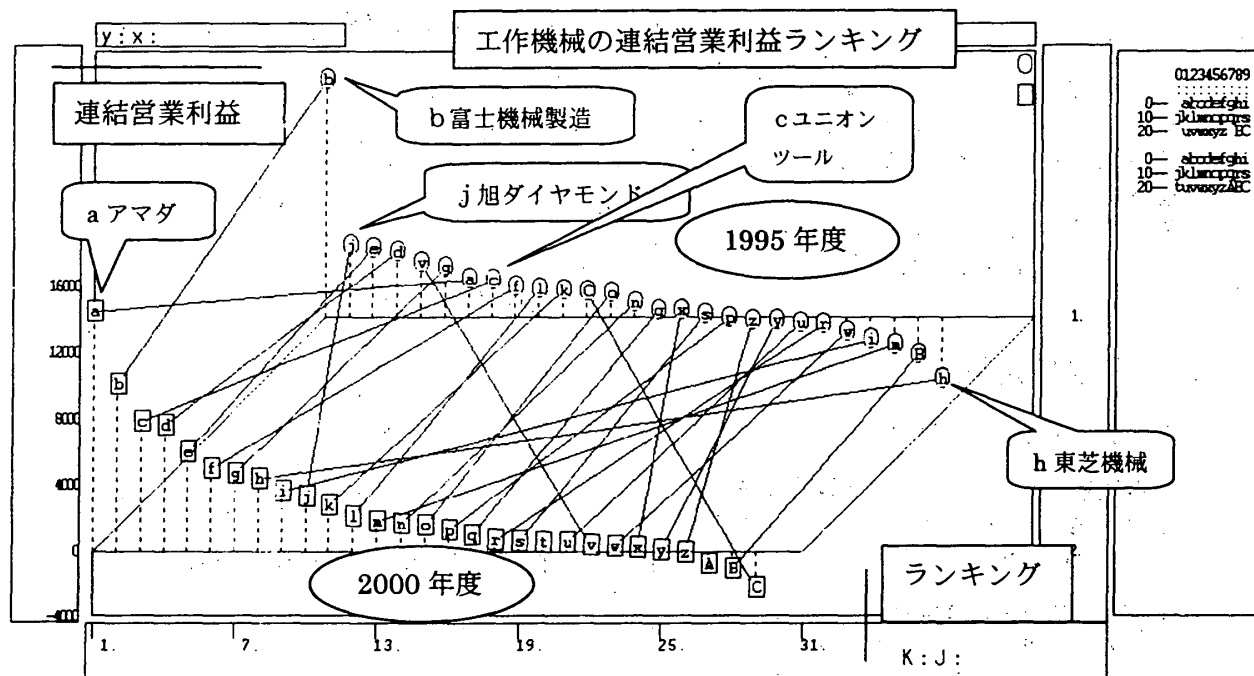
2. Web ラーニングシステム

筆者は、従前より総合的なデータ解析の情報教育研究システム XCAMPUS を開発してきた。XCAMPUS は、「探索的経済経営データ処理大学用システム eXploratory Computer Aided Macro-economic and micro-economic data Processing University System」の略称である。Windows サーバーないしは Linux サーバー上に日経 NEEDS (Nikkei Electronic Economic Data System) のマクロ経済とミクロ財務（新会計基準対応）のデータベースを構築し、学内のすべての Web ブラウザ上からデータ解析が一斉にできるような自己完結型の教育研究システムである。社会人対象の夜間大学院のような遠隔地のサテライトキャンパスからも同じように利用できる。阪南大学、法政大学、松山大学、大阪経済大学、高知大学、大阪府立大学、東京経済大学、大阪市立大学、福山平成大学、広島大学、関西大学、金沢大学等の各大学内にもシステムは移植され、主として教育用に利用されている。XCAMPUS の情報や文献については、<http://xcsv.kobeuc.ac.jp/xcampus> の URL を参照されたい。

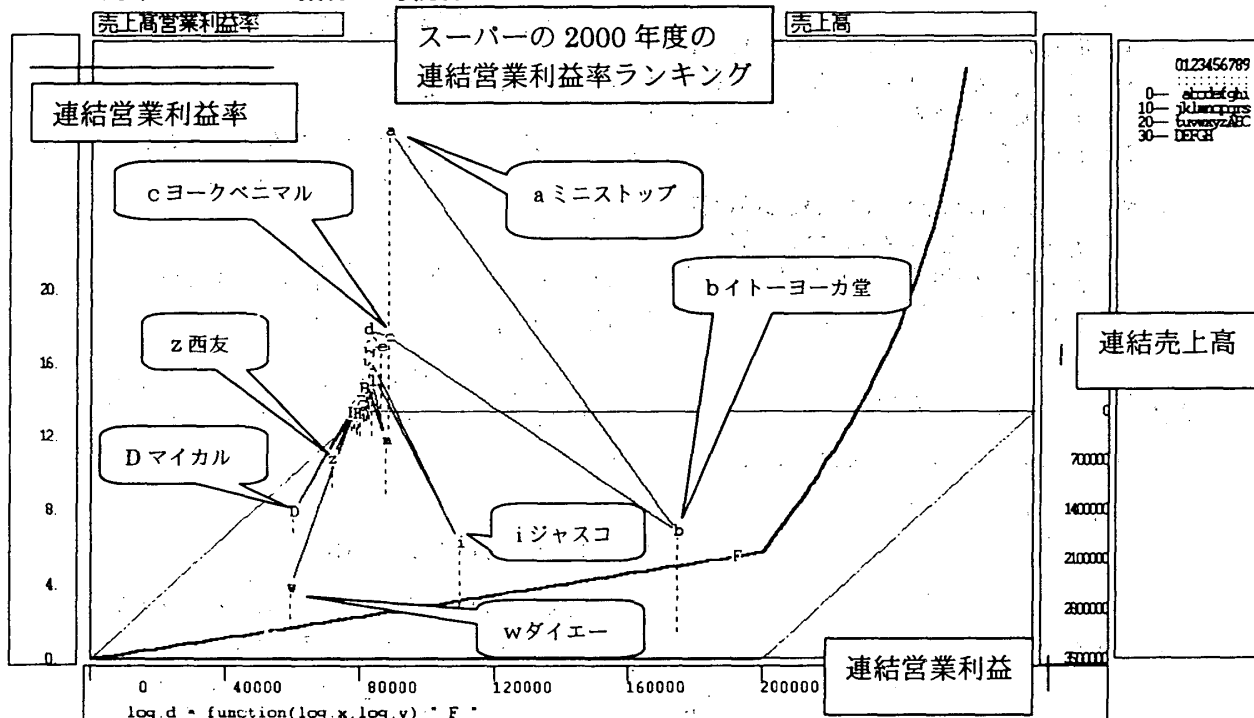


このシステムを用いると、ランキング事例に限っても、ユーザは任意の業種で、任意の指標に関する、任意の時点のランキングのビジュアル分析が可能になり、百人百様の結果が得られる。Excel 等へのデータ転送もクリック1つで行われるので、既成のソフトウェアを併用して教育研究することもできる。作成したグラフは、コピー&ペーストの要領で Windows の場合は Word 等に、Linux の場合は GIMP 等に貼り付けて吹き出しなどの描画を施すことができる。以下はその図示例である。

3. 異時点ランキング指標の可視化



4. 比率ランキング指標の可視化



5. 増減数ランキング指標の可視化

6. 増減率ランキング指標の可視化